

「けんちく体操」ワークショップを中心とした 建築教育プログラムの実践と普及活動

正会員 米 山 勇 君
正会員 田 中 元 子 君
正会員 大 西 正 紀 君
高 橋 英 久 殿

「けんちく体操」とは、建物の形を身体だけで表現する、ワークショップ型の教育プログラムである。建物を身体で表現するためには、まず建物の姿をじっくり観察し、その特色を自分なりに把握しなければならない。一人で表現できる建物もあるが、多くは複数の仲間と協同で形をつくらなければならない。そこで、建物を身体でどう設計するかについての議論が必要となり、建物を介して参加者間のコミュニケーションが生まれる。そして、身体で建物をうまく表現できたという創造体験が、建物へのさらなる関心を引き出す。老若男女の別なく、誰もが楽しめるプログラムである。

本業績の意義は、「けんちく体操」を通して、一般の人たちに普段は見過ごしている身の回りの建物の形に目を向けてもらい、建物と人との関わりを認識してもらうことにある。加えて、子どもから高齢者まで、幅広い年齢層を対象とした、楽しみながら学ぶ建築教育プログラムであることに特色がある。「けんちく体操」は、小学校の授業で、また建築の基礎教育として工業高校や専門学校の授業に、さらには、まちあるきのワークショップ等にも活用されている。いずれも、身近な建築という環境をじっくり観察する目を養うという教育効果を生み出している。

江戸東京博物館と江戸東京たてもの園で教育普及事業として生まれた「けんちく体操」は、チームけんちく体操を結成することで、学校などの教育機関や各種イベントでも活用されるようになった。さらに、書籍『けんちく体操』やテレビ等の各種メディアを通じての社会への浸透は大きい。海外での普及活動も積極的に行われている。チームけんちく体操のメンバーだけにとどまらず、「けんちく体操」のマイスター制度をつくることで、「けんちく体操」の指導者を広げ、さらなる普及が図られている。このように、「けんちく体操」はその対象とする層が非常に広く、いつでも、どこでも、誰とでもできる、建築に関する生涯学習プログラムとなっている点での教育貢献が高く評価された。身近な建物の形を観察する力と協同作業によるコミュニケーション力を高める「けんちく体操」は、それを発展させれば、建物周辺の景観やまちづくりを考えることにもつながるなど、新たな展開も期待できよう。

よって、ここに日本建築学会教育賞（教育貢献）を贈るものである。